

事業所名		児童・放課後デイサービスHOPE			公表日		R8 年 1 月 8 日	
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点		
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○		利用者用の部屋が2部屋あり活動内容や人数によって部屋の使い分けを工夫している。	法令に遵守したスペースの確保は確実にを行っています。部屋の移動に関してはお子さんの様子を必ず確認しケガ、事故のないように配慮していきます。		
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	○		法令に遵守した人員配置をしている。利用者の特性に応じて個別対応できるように適切な職員配置を工夫している。	保護者のご要望に応える支援ができるように、今後も人員配置に気を配っていきます。		
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	○		古い建物ということもあり、玄関廊下から居間の部屋へ行く際に段差があり、バリアフリーとは言えないが、気を付けてもらうよう声掛けを行っている。	引き続き安全面に配慮し、個別に特性に応じた声掛けや視覚提示などの設備を整えていくようにします。		
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○		子どもたちが過ごす部屋なので、清潔に保つよう心掛けている。子どもたちの活動に合わせて部屋を使い分け換気や空気清浄機等も配置している。	引き続き、衛生管理に十分に気を付けていきます。子ども達が気持ちよく利用できるように配慮していきます。		
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○		一人になりたい子どものための和室もあり子どもの特性により個別の部屋、クールダウンの場所が不足する状況があった場合はパーテーション等を使用して部屋を分けるなどの工夫をしている。	引き続き、必要に応じて子どもの特性に応じた個別の部屋や場所の配慮をしています。		
業務改善	6	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	○		業務改善を進めるため、目標設定や振り返りなど職員が参画している。業務の見直しや改善があれば行い、共有事項の確認や改善については積極的に話し合うようにしている。	今後も、日ごろから職員同士で話しやすい職場環境づくりを心がけていきます。		
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		アンケートや個別懇談、通所記録を通して保護者の意向、悩みを把握し、職員で共有し、業務改善につなげている	保護者からのご意向等は真摯に受け止め、その内容を業務改善に努めています。		
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		定期的にミーティングを行い、意見を出し合い、よりよい支援につながるように業務改善に反映している。	業務改善につながるように、今後も職員の意見に常に耳を傾け、より良い事業所を目指します。		
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		○	現在は第三者による外部評価は行っていないが、内部監査等を定期的にしっかり行っている。改善点などを職員間で共有している。	今後も定期的に内部監査を行い、より良い支援とサービスの質の向上を目指していきます。第三者による外部評価は今後の検討課題である。		
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○		法人内、事業所内研修、オンライン研修、外部研修等に積極的に参加している。	職員の質の向上を目指し、外部研修に積極的に参加できるように職員の配置に配慮していきます。また、きめ細やかな事業所内研修もしっかり行っていきます。		
	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○		支援プログラムを作成しホームページで公表している。	支援プログラムは、事業所のホームページに公表しています。		
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画（放課後等デイサービス計画）を作成しているか。	○		アセスメントを6か月に1回は必ず行い保護者のニーズや課題について聞き取り、その内容を職員と話し合い共通理解を深めながら支援を検討している。	今後も日々の子どもの様子を通して保護者と懇談を行い、保護者からのニーズ、子どものニーズや課題を分析し、支援会議にて支援内容を考え、支援計画を作成していきます。		
	13	児童発達支援計画（放課後等デイサービス計画）を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○		子どもの支援に関わる職員は、日頃より子どもの様子を報告し合い子どもの最適、最善の支援を検討している。	今後も支援計画の作成にあたり、子どもの最善の利益を考慮した検討をすること、子どもの支援に関わる全ての職員の共通理解を図り、計画を作成します。		
	14	児童発達支援計画（放課後等デイサービス計画）が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○		子どもの様子を確認、共有しています。個別支援計画を共有し計画に沿って支援をするためのミーティングを必ずし、計画に沿った支援を心がけている。	個々のお子さんの支援の方向性を確認していくため、日頃から個々のお子さんの状況について話し合いの場を設けており、今後も続けていきます。		

適切な支援の提供	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○		子どもの日々の行動を記録したものを確認しながら、アセスメントツールを使い確認している。	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題をしっかりと分析していき、事業所内支援会議を行い、ニーズに沿った支援計画を作成していきます。
	16	児童発達支援計画（放課後等デイサービス計画）には、児童発達支援（放課後等デイサービス）ガイドラインの「児童発達支援（放課後等デイサービス）の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○		具体的な支援内容を設定している。また、項目ごとにこどもの支援に必要な具体的な設定と支援内容が設定されているか確認している。	引き続き、丁寧な支援が行われるように子どもの支援に必要な項目の設定、課題を記載していきます。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○		職員全体で話し合い立案している。様々な体験が出来るように季節に応じた活動を取り入れるなど意識して取り組んでいます。	個々のニーズや課題に合ったプログラムを職員間で考え、個々の活動の場を広げていけるように協力して今後も取り組んでいます。
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○		子どもの様子を観察しながら固定化しないように努めている。	定期的に活動内容を見直し、個々のニーズに合わせて活動の幅が広がるように今後も工夫していきます。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ児童発達支援計画（放課後等デイサービス計画）を作成し、支援が行われているか。	○		個別活動と集団活動(ゲーム、グループ体育活動、クッキング、イベント活動など)をバランスよく取り入れるよう心がけている。	子どもや保護者から要望を取り入れながら、子どもの状況に応じてより質の高い支援ができるように引き続き、工夫していきます。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○		支援活動前に話し合う時間を設けている。変更があった場合はその都度、職員間で共有し、支援がスムーズに行くようにチームで連携して取り組んでいます。	職員間で活動内容について必ず共有をし、前回の支援との照らし合わせを行い、確認していきます。次の支援に繋がるように配慮していきます。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○		支援終了後に話し合う時間を設けており、気になったことなどは必ず職員間で共有している。振り返りなどで時間が無い時は翌日の支援前に話し合っている。	引き続き、職員間での共有を図り、支援の方向性を確認しながら個々の子どもの様子の確認、記録した内容の確認など、次の支援に繋がるよう努めています。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○		通所記録、日報などで必ず記録を取り、残している。定期的に読み返し、検証・改善に心がけている。	日々の報告、共有から支援の検証をし、改善点を話し合います。また、それを継続して実施し、努めています。
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画（放課後等デイサービス計画）の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○		定期的にモニタリングを行い、子どもの状況や様子に合わせ、適切な見直しを行っている。	子どもの様子については、保護者や相談支援員さんとも連絡を密にとり、定期的にモニタリングを行い、積極的に情報を共有し、見直しを行っていきます。
	24	【放デイのみ】放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	○		ガイドラインの4つの基本活動を複数組み合わせるよう努めている	子どもにとってのより良い支援になるように寄り添いながら4つの基本活動を組み合わせ、支援の実施に努めます。
	25	【放デイのみ】こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	○		主体的な行動がとれるよう自分で選択する場面を設けて自己決定力を育む支援を行っている。	引き続き、自立して社会に出るために必要な自己決定力を育てる支援に今後も努めています。
	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○		児童発達管理責任者、その子どもの状況をよく理解した者、普段支援をしている職員が積極的に参加するようにしている。	子どもにとって必要な関係機関が集まり、連携を図れるように今後も継続していきます。
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○		お子さんによっては、学校に向き、支援の方向を同じにするための話し合いなどを行い、連携を図るようにしている。	引き続き、関係機関と連携がとれるように体制を整えていきます。
	28	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	○		必要に応じて、保護者と共に連絡を取り、療育センターなどの助言等を受けたり連携を図る機会を設けている。	今後も必要に応じて助言等受ける機会を作り連携を図ります。
	29	保育所や認定こども園、幼稚園等、または放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。		○	夏祭りの参加や地域の公園などに出かけていき地域の子どもたちに交じって活動する機会や公共の場に出かけていくなどの機会を設けている。	外出活動等を通じて出来る限り地域交流の場での活動の機会を積極的に設けていきます。

関係機関や保護者との連携	30	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○		日頃よりその日の様子を伝え、必要に応じて電話や懇談などを行い、そのお子さんの持つ課題について共通理解を深めている。	保護者と情報共有を行いながら、信頼関係を築き、保護者と支援に対する共通理解を図っていきます。
	31	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	○		家族支援として相談などに個々に応じて家庭で行える支援を具体的に伝えている。ペアレントトレーニング、家族等の参加できる研修の機会の情報提供等はこれからの課題である。	必要に応じた助言やアドバイス等を行っています。ペアレントトレーニングとその研修等の参加についても前向きに検討していきます。
	32	【 児発事業所・児発センターのみ 】併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○		こども園での様子などこども園の先生を交えて会議を行ったり、支援内容の情報を共有する機会を作っている。	今後もインクルージョン推進のためこども園との情報共有、相互理解を積極的に図っていきます。
	33	【 児発事業所・児発センターのみ 】就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○		就学に備えて小学校や特別支援学校との情報共有と連携を図る努力をしている。	引き続き、就学先の小学校との間で支援内容等の情報共有と相互理解に努めていきます。
	34	【 児発センターのみ 】地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	35	【 児発センターのみ 】質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	36	【 児発センターのみ 】(自立支援)協議会・こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	37	【 放デイのみ 】学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	○		送迎を行っていないため、学校からの直接の情報共有、連絡調整はないが、保護者を通じて適切に行っている。	今後も保護者から聞き取りを行い、学校行事などの把握に努めていきます。
	38	【 放デイのみ 】就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	○		就学前にはこども園に出向き、小学校への申し送りなどの共有や事業所での様子などの情報共有をし相互理解に努めている。	今後も相談支援員さんを通じて、こども園の先生との情報共有、相互理解に努めていきます。
	39	【 放デイのみ 】学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。		○	卒業後、障害福祉サービス事業所等への移行者はまだいないため、行っていない。	今後、学校を卒業し放課後等デイサービスから障がい福祉サービス事業所等へ移行がある際には、支援内容等の情報を提供し、協力に努めていきます。
保	40	【 放デイのみ 】（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	○		自立支援協議会等の各事業所連絡会議や研修などに積極的に参加している。	積極的に自立支援協議会等の研修などに参加していきます。
	41	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○		契約時に必ず丁寧な説明を行っている。不明な点がないかの確認も行っている。	保護者に安心して当事業所を利用してもらえるように、引き続き丁寧に説明を行っています。
	42	児童発達支援計画（放課後等デイサービス計画）を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○		子どもや保護者の意思を尊重し、子どもの最善の利益を考え、子どもや家族の意向の確認を必ず行っている。日頃よりその日の様子を伝え課題について共通理解を深めている。	子どもの最善の利益を優先するため、今後も子どものニーズ、保護者のニーズの聞き取りをしっかりと行い、子どもや家族の意向を確認していきます。
	43	「児童発達支援計画（放課後等デイサービス計画）」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	○		個別支援計画を示しながら、内容等、丁寧な説明を行い同意を得ている。	支援内容についての質問があった際には細かく丁寧に説明をしています。
	44	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○		各保護者に毎回声掛けをし、子育ての悩み、家族間のトラブルなど、様々な悩み等に対する相談を定期的に行っている。	相談依頼があったら迅速に対応し、保護者からの悩み相談、情報共有をしながら信頼関係を築き、保護者との共通理解を図っていきます。
	45	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	○		父母の会の活動は行っていないが、保護者会で保護者同士が話をしたりする交流の機会は設けている。	日頃から保護者同士が交流できるようにイベント等の参加に声掛けをしています。

護 者 へ の 説 明 等	46	こどもや保護者からの相談や苦情、申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や苦情、申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○		苦情処理体制を整えており、苦情の申し入れなどがあった場合には、記録に残すようにし、苦情、要望があった場合、迅速、適切に対応をすることを心がけている。	日頃から保護者に困り感や不安などが無いか声掛けをしていき、意見や要望を引き出しやすい環境づくりを心掛けていきます。
	47	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	○		会報を月1回発行して活動内容や行事予定を発信している。また、ホームページにも活動内容などをブログに掲載・発信している。	今後も引き続き、プログラムや行事予定、保護者が知りたい情報、安全管理面などの情報などを発信していくよう努めます。
	48	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○		契約時に個人情報使用同意書等を説明して同意を必ずもらっている。また、秘密保持についての説明も行い、個人情報の取り扱いには十分に注意を図っている。	引き続き個人情報の取り扱い、管理には十分注意を払っていきます。
	49	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○		個々の特性を十分に理解し、子どもや保護者の意思の疎通や情報伝達ための配慮をしている。	引き続き、個々の特性に応じた対応をできる限り行っていくように努めます。
	50	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		○	地域の掃除、行事などにも積極的に参加するようにしている。地域住民を事業所の行事に招待する等は今後の課題となる。	今後も地域活動に積極的に参加し、開かれた事業所運営に努めていきます。子ども達も安心して招き入れてもらえる関係性を今後も維持していきます。
	51	<u>【放デイのみ】</u> 家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○		家族からの子育ての悩みなどに適切に応じ、面談や必要な助言や支援を行っている。	引き続き、保護者と情報共有しながら、信頼関係を築き、支援に対する共通理解を図っていきます。
非 常 時 等 の 対 応	52	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○		事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し職員には研修を行い、家族等には会報で知らせるなど周知をしている。また、感染症など発生を想定した訓練の実施も行っている。	今後も研修や訓練を行い、定期的なマニュアルの見直し、必要に応じて修正も行っていきます。
	53	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○		業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている。	日ごろからの防災意識を高め、職員にも危機管理や防災、避難に対する知識等の研修を引き続き行っていきます。
	54	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	○		契約時に服薬、持病についての聞き取りを行い確認をし、アレルギーや、てんかん発作など子どもの状況を確認している。	お子さんにとって命に係わる大切なことなので見落とすことのないよう状況確認をしています。
	55	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○		契約時にアレルギーについての聞き取りと対応等を確認をし、その都度対応している。現在、食物アレルギーのあるお子さんについて医師の指示書が出ているお子さんはいませんが、アレルギーに対しては十分は注意を図っている。	より適切な対応が出来るように必要に応じて医師と連携をとれるようにしていきます。
	56	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○		安全計画を作成し、毎年見直しを行っている。また、安全管理に必要な事故防止対策研修などを行い、安全管理が十分された中で支援を行っている。	安全管理を徹底し、研修やその他必要な措置を講じる等必要に応じて安全計画の見直しも図っていきます。
	57	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○		子どもの安全確保に関しては、災害時の引き渡しカードの作成により災害時に家族と連携がとれるようにしています。また、会報にて安全計画に基づく取り組みを行っていることや普段の取り組みなど保護者に周知している。	子どもの安全確保や家族との連携、安全計画に基づく取り組み内容など変更がある場合にも必ず会報等で周知していきます。
	58	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○		お子さんによるヒヤリハットが生じた時に事業所内で必ず共有し、再発防止に向けて対策検討を毎回行っている。	ヒヤリハットにつながる子どもの行動などに常に注意し、ヒヤリハットが起りやすい場所、時間帯などを共有し検討、対策を考えて子ども達が安全に過ごせるように努めていきます。
	59	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○		虐待防止の職員研修を必ず行い、外部研修にも積極的に参加しており、研修内容等を職員間で共有し適切な対応をしている。	できる限り、どの職員にも研修に参加できる機会を確保できるように努めていきます。

	60	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	○		身体拘束を行う可能性のあるお子さんはいないが、身体拘束について組織的に決定し、身体拘束適正化の職員の研修を必ず行い理解を深めている。	身体拘束適正化委員会の継続、身体拘束についての適切な理解のため、職員間で研修することを継続していきます。
--	----	--	---	--	--	--